

ケアポート板橋 特養5階

症 例 概 要 利用者氏名：Sさん（100歳代・要介護度4）

病名：アルツハイマー型認知症、慢性心不全、陳旧性肺結核、難聴、乾燥性皮膚掻痒症

利用期間：令和1年5月中旬～現在）

娘さんと同居されておりましたが、自宅での介護が難しくなり、平成30年2月下旬よりケアポート板橋のショートステイをご利用開始。自宅では寝たきりの状態で褥瘡が発生してしまい、食事・水分を摂って頂けない事が増え、点滴が必要な状態が続いておりました。娘さんより施設への入所希望があり、ケアポート板橋に入所となっております。

内 容

入所時はティルト型車椅子に乗車。食事へ全く手を付けて頂けない事もあり、褥瘡からの痛みや座位保持も体力的に難しく、すぐに「寝たい。」と仰り、長時間の臥床を余儀なくされておりました。

1ヵ月後、ご本人から「トイレに行きたい」と意欲的な発言が聞かれ、直ぐにPTと連携を開始。シーティングをして座位保持を続けることで、普通型車椅子やトイレでの座位保持も可能となるのではないかと助言を受け、短時間からの座位訓練を実施。次第に座位も安定し、トイレ誘導を開始しました。その後は尿意や便意も復活し、失禁も殆どなくなりました。

食事面では「あんぱんが食べたい」とのご要望から、管理栄養士との連携にて食形態の向上と自力摂取の為の取り組みを開始。その結果、咀嚼や嚥下も問題なく、食形態も向上。自力にて摂取する事が可能となりました。念願のあんぱんを、「美味しい」と喜ばれた姿には職員一同、感動を覚えました。

入所時にあった褥瘡は、毎日の洗浄と状態に応じた処置を行い、体位交換、栄養補助摂取に配慮し、排泄介助や座り直し等も職員2名で徹底対応。看護との細やかな連携のもと、見事に完治させる事が出来ました。

褥瘡が完治したことにより、離床時間も増え、ご本人より「編み物なら出来るよ。」との言葉を直ぐに実行へ繋げました。毛糸の組み合わせを真剣に考えられ、丁寧に編まれている姿に、ご家族も感動されておりました。今では日中の殆どの時間を食堂にて他利用者さんの方と一緒に談笑されながらお過ごしになられております。

11月にお誕生日を迎え、キラキラした笑顔を毎日私たちにを見せて下さっています。

多職種連携の成功事例であるこの事例はキラキラ介護賞に値すると思ひ、推薦させていただきます。